

■具体的な施策（施策パッケージ）のまとめ

都市交通政策の基本方針に基づく、都市交通の目標像、公共交通の目標像を実現するため、6つの施策パッケージからなる交通施策と連携施策をからめた総力戦によるまちづくり戦略を展開します。

将来都市像

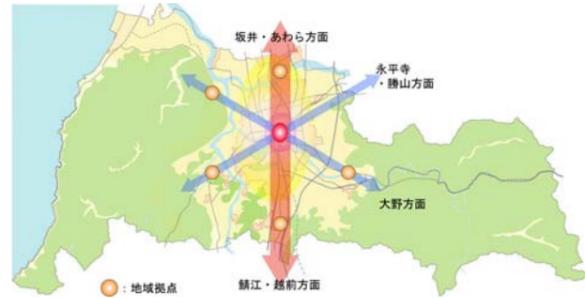
人にやさしい「全域交通ネットワーク」とにぎわいとやすらぎの「まちづくり」

都市交通政策の基本方針

- ・福井都市圏における広域総合交通体系の構築
- ・公共交通を中心とする交通施策への転換
- ・地域バランスのとれた交通環境の構築

都市交通の目標像

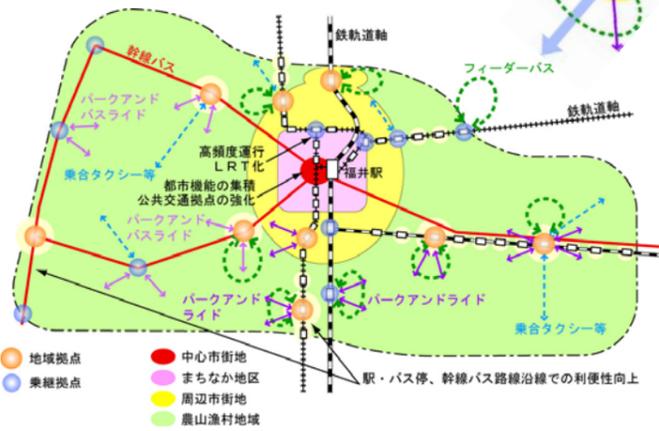
地域を軸と拠点でつなぐ 「全域交通ネットワーク」づくり



公共交通の目標像

既存ストックを活用した 福井型公共交通ネットワーク

- ① 6方向の公共交通幹線軸の強化
- ② 軸と地域を結ぶ拠点の形成
- ③ 地域特性にふさわしい交通サービスの確保



地域別の目標、サービス水準

- 交通の目標
- 公共交通サービス水準

中心市街地

- 安全快適に歩け、各方面への公共交通が便利で、クルマや自転車で来ても停めやすい
- 総合交通ターミナルで、いろいろな公共交通に便利に乗り継げる

まちなか地区

- 自転車、徒歩で移動でき、誰もがいつでも公共交通を利用できる
- 南北軸では10分間隔で発着
その他の地域内では概ね20分間隔（ピーク時10分間隔）で発着

周辺市街地

- クルマや自転車を組み合わせて、気軽に公共交通を乗り継げる
主要な駅・バス停では公共交通のサービスも高い
- 南北軸では10分間隔で発着
その他の地域内は20～60分間隔（ピーク時10～30分間隔）で発着

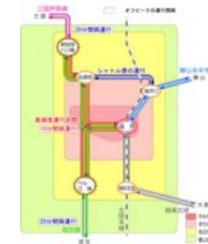
農山漁村地域

- 地域拠点ではシビルミニマムの交通サービスを受けられ、乗り継ぐことで、必要なときに移動できる
- 地域拠点では福井駅まで1時間間隔（ピーク時30分間隔）で発着
地域拠点から周辺地域へは、地域特性に応じたサービスを提供

総力戦による施策展開

1. 南北幹線軸としてのLRTの整備

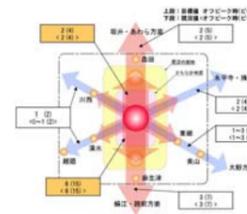
・既存の鉄軌道ストックを活用したLRTの高頻度運行によって、高水準の公共交通サービスを提供する公共交通幹線軸の軸を形成



- 鉄軌道の整備
- 車両の更新
- 相互乗入の具体化（運行形態、ダイヤ、料金等）

2. 東西幹線軸となる幹線バス路線の整備

・東西方向に広がる市域への公共交通幹線軸として中心市街地と各地域拠点を連絡するバスサービスネットワークを形成



- 幹線バス路線の活性化
- フィーダーバス（地域バス）の検討・運行

3. 交通結節の強化

・公共交通幹線軸と市域各地域を結節し、地域にふさわしいフィーダーサービス等と日常生活サービスの提供によって利用者の利便性を高める地域拠点、乗継拠点を形成

- 施策メニュー
- ・ フィーダーバス
- ・ 地域バス
- ・ バスロケーションシステム
- ・ パーク&ライド 駐車場
- ・ サイクル&ライド 駐車場 等

- 福井駅西口駅前広場へのバスターミナル機能の導入
- 地域拠点、乗継拠点の機能強化

4. 電車・バスのICT化

・公共交通の利便性を高めるため、ICカードの導入や総合情報案内サービスを提供



- ICカード導入の検討
- バスロケーションシステム拡充
- 電車総合情報システム導入

5. モビリティ・マネジメントの推進

・環境負荷の抑制など、過度なクルマ利用から、かきこいクルマの利用への転換を啓発し、市民自ら移動手段について考える「場」を提供



- 各種整備事業にあわせたモビリティ・マネジメントの実施

6. 駐車マネジメントの推進

・中心市街地のにぎわい、活力の再生に向けて、誰もが使いやすい交通環境をつくるため、クルマ利用の効率化に向けた既存駐車場の活用について検討



- 駐車場への案内強化
- 携帯電話を利用した駐車場情報提供システムの活用・拡充

施策パッケージ（交通施策）

連携施策

公共交通幹線軸、地域拠点への機能集積

	《目的》	《手段》	《効果》
商業・業務	にぎわいの創出	・ 民間投資 ・ 空きオフィス・店舗の活用施策 等	昼間人口の増加
住宅	暮らしやすさ	・ 住宅建設 ・ 定住促進に関する施策 等	夜間人口の増加
福祉	健康な暮らし	・ 交流の場づくり ・ 福祉有償運送サービスとの連携施策 等	高齢者等の外出増加
環境	地球温暖化の防止	・ 環境意識の啓発 ・ CO ₂ の削減施策 等	公共交通への転換

■地域別の施策パッケージと連携施策

目標実現に向けた市域各地域の交通の目標、サービス水準の実現に向け、施策パッケージ（交通施策）、連携施策を展開します。

